

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 5 月 31 日現在

機関番号：14301
 研究種目：若手研究(B)
 研究期間：2011～2015
 課題番号：23792589
 研究課題名(和文)エンド・オブ・ライフ・ケアに携る臨床看護師に対する看護倫理教育プログラムの開発

 研究課題名(英文)Curriculum Development and Evaluation of an Nursing Ethics Curriculum in End-of-Life Care

 研究代表者
 竹之内 沙弥香 (TAKENOUCHI, Sayaka)

 京都大学・医学(系)研究科(研究院)・助教

 研究者番号：00520016
 交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、エンド・オブ・ライフ・ケアに携わる我が国の臨床看護師に対して、新たな看護倫理教育プログラムを開発し、そのプログラムを用いた教育的介入が看護師に及ぼす影響を、倫理的感受性、死にゆく患者に対する看護師のケア態度、ホスピス・緩和ケア病棟におけるアドバンスケアプランニングに関する態度及び実践の3指標を用いて多方面から検討した。

その結果、本プログラムは、臨床看護師の死にゆく患者に対する看護師のケア態度に正の影響を及ぼし、アドバンス・ケア・プランニング(ACP)の有効性に関する認識を高め、患者の治療やケアの目標を確認するACPの実践を促す影響を及ぼす可能性があることが示唆された。

研究成果の概要(英文)：Nurses could exert a significant degree of influence on quality of life in patients with serious illness by engaging in end-of-life discussions. However, nurses have little opportunity to learn and gain skills in advance care planning. This study aimed to develop and evaluate a nursing education curriculum focused on nursing ethics in end-of-life care. The intervention was a 90-minute program provided to nurses who work in end-of-life care settings, including a 20-minutes lecture, 15-minutes video vignette viewing, and a 30-minute role playing exercise followed by group discussions. This curriculum appeared effective in raising awareness about the importance of advance care planning, initiating end-of-life discussions, and empowering nurses to be engaged in advance care planning. Future studies should evaluate and improve on the curriculum, on data collection tools quantitatively, and on overcoming barriers to advance care planning.

研究分野：看護倫理

キーワード：看護倫理 End-of-Life Care 看護継続教育 臨床倫理 ターミナルケア 倫理教育 エンド・オブ・ライフ・ケア アドバンス・ケア・プランニング

1. 研究開始当初の背景

わが国では死亡数が出生数を上回り、「少産多死」の時代が到来している。国立社会保障・人口問題研究所の報告によると、国民の総死亡数は今後も増加傾向にあり、平成26年の約127万人から10年後には約155万人にまで増加する可能性が指摘されている¹⁾。このような状況のもと、看護師には倫理的な看護ケアの実践により、患者の尊厳ある人生の最期を支え、家族に安心を与える、質の高いエンド・オブ・ライフ・ケア (EOL ケア) を提供する重要な役割が課されている。

看護師による質の高い EOL ケアの実践を目指して国内で早期から辛い症状を緩和するための EOL ケアにまつわる教育研修の機会は充実してきているが、人生の最終段階を迎えた患者及び家族を支える看護師を対象とした、倫理的看護実践に関する教育の機会は依然不足している。そのため、看護倫理の基本事項の理解に基づき倫理的感受性を高め、患者の思いを汲み取りアドボケートできるコミュニケーション能力や、倫理問題への対応力を修得できる看護倫理教育カリキュラムの整備が必要不可欠である。

2. 研究の目的

本研究は、EOL ケアに携わる我が国の臨床看護師に対して **End-of-Life Nursing Education Consortium Japan (ELNEC-J) Module 4** に基づく、新たな看護倫理教育プログラムを開発し、そのプログラムを用いた教育的介入が看護師に及ぼす影響を、倫理的感受性^{2,3)}、死にゆく患者に対する看護師のケア態度⁴⁾、ホスピス・緩和ケア病棟におけるアドバンスケアプランニングに関する態度及び実践の3指標を用いて、多方面から検討した。

3. 研究の方法

日本の EOL ケアに携わる臨床看護師を対象に、**End-of-Life Nursing Education Consortium Japan (ELNEC-J) Module 4** に

基づく看護倫理教育プログラムを新たに開発し、そのプログラムを用いた教育的介入が看護師に及ぼす影響を、倫理的感受性、死にゆく患者に対する看護師のケア態度、専門職としての自律性の3つの指標を用いて、縦断調査を実施した。はじめの2年間をプログラム開発と修正、残る2年間をプログラムの実施と評価に分けて研究を実施した。

4. 研究成果

(1) 看護倫理教育プログラムの検討

平成23年度には、我が国のEOLケアにたずさわる臨床看護師を対象とした、新たな看護倫理教育プログラムの内容やあり方について検討した。平成19年～21年度厚生労働科学研究費補助金臨床研究事業「がん医療の均てん化に資する緩和医療に携わる医療従事者の育成に関する研究」班において、研究者は**ELNEC-J**コアカリキュラムを開発した。そのカリキュラムの10のModuleの中に、EOLケアにまつわる倫理問題を取りあげたModule 4があり、本研究課題においてそのModule 4に不足するコンテンツを補い、汎用性を高めるための検討を実施した。

看護倫理教育プログラムに補足する内容として、EOLケアの臨床にたずさわるジェネラリストナースが、倫理問題の同定・分析・解決するのに必須とされる、医療倫理や看護倫理の知識に関して、基礎的な内容を追加することとした。また、倫理に関する用語をわかりやすく説明する必要性についても確認した。

また、臨床倫理の事例検討用フォーマットとして、**Jonsen**らの臨床倫理の4分割等をもとに、看護師が臨床倫理の事例検討を行うことができる枠組みとその手引きについて検討し、プログラムを受講した看護師が独自に事例検討を実施できるよう配慮した。

(2) プログラム内容の修正

平成25年度には平成24年度までに検討した看護倫理教育プログラムに基づき、効果的

な学習を促すカリキュラムの枠組みである教育の分類体系に基づいて、認知・感情・精神運動の各ドメインに働きかけられる要素を補充できるよう検討を重ねた。

(3) パイロットスタディの実施

平成26年度には、開発した看護倫理教育プログラムのパイロットスタディを実施し、半日のプログラムの運営において、事例検討の位置付けや、改善点及び留意点を再度検討し、運営マニュアルの作成を通して、プログラムの実施可能性について検証した。

(4) 看護倫理教育プログラムの実施・評価

平成27年度までの研究成果に基づき、本学において、本研究において開発された看護倫理教育プログラムを開催し、本プログラムを用いた教育的介入が、参加した看護師に及ぼす影響を検証した。

① 実施：平成27年12月から平成28年1月の期間に、看護倫理教育プログラムを2回にわたり実施した。

② 対象：上記プログラムへの参加を希望した、緩和ケアやEOLケアに携わった経験のある臨床看護師

③ 教育的介入：

- 1) イントロダクション
- 2) 講義 (20分)
- 3) 事例に基づく動画視聴 (15分)
- 4) ロールプレイ (30分)
- 5) グループ討議 (20分)
- 6) まとめと質疑応答

④ 倫理的配慮：

質問紙調査は無記名自己記入式で行われた。質問紙への回答は任意であり、研究協力者の自由意思を尊重した。そのため、研究参加への同意は、研究協力者の質問紙への記入によって得られることを事前に十分に説明した。本研究は、京都大学大学院医学研究科医の倫理委員会の承認を得て行われた。

⑤ 解析：

調査対象者による、倫理的感受性^{2,3)}、死にゆく患者に対する看護師のケア態度⁴⁾、ホスピス・緩和ケア病棟におけるアドバンスケアプランニングに関する調査表⁵⁾への回答結果の集計を記述統計により行った。解析の対象は、上記のプログラムに参加し、自記式質問紙調査への参加に同意した看護師45名(年齢：42.7±8.8 (SD) 歳、臨床経験：15.6±11.3 年、男：1名、女44名)であった。質問ごとに有効回答数が異なる。

表 1. 調査対象者の職種

職種 (n = 45, 複数回答あり)	人数	(%)
認定看護師	6	(14.0)
教育担当者	2	(4.7)
看護師長	3	(7.0)
主任・副師長	4	(9.3)
訪問看護師	9	(20.9)
退院調整看護師	4	(9.3)
病棟スタッフ	13	(30.2)
看護教員	4	(9.3)
その他	7	(16.3)

表 2. 調査対象者の勤務施設

勤務施設 (n = 45)	人数	(%)
がん診療連携拠点病院 (*)	13	28.9
*以外の200床以上の病院	8	17.8
*以外の200床未満の病院	6	13.3
在宅介護事業所	5	11.1
老健	1	2.2
教育機関	6	13.3
その他	6	13.3

⑥ 本プログラム受講による影響

1) 倫理的感受性の変化

本プログラム参加前後において、すべての下位尺度において、得点が増加していたが、有意な差は認められなかった。

2) 死にゆく患者に対する看護師のケア態度

の変化

「死にゆく患者と差し迫った死について話をすることを気まづく感じる」の項目について、教育的介入後には、患者と差し迫った死について対話することを気まづく感じるものが減少する傾向にあることが明らかになった。

3) ACP に関する態度及び行動の変化

ACP に関する態度について、「ACP は患者が意思決定能力を失った際にその後の医学的処置を決定するための有効な手段である」の項目について、プログラム前後において有意な変化が認められた。また、「ACP を行うにあたり、患者の意思決定能力を判断することに困難を感じる」は減少傾向にあった。

さらに、ACP の実践については、「患者の治療・ケアの目標を確認する」は、プログラム受講後において有意に変化が認められた。

これらの結果から、スクール形式で行われる講義にとどまらず、認知・感情・精神運動の各ドメインに働きかけられる要素を含む、動画の視聴、事例検討や少人数のロールプレイ及びグループディスカッション等の参加型体験学習形式によって構成される本プログラムによる教育的介入は、EOL ケアに携わる臨床看護師の死にゆく患者に対する看護師のケア態度に正の影響を及ぼし、ACP の有効性に関する認識を高め、患者の治療やケアの目標を確認するという ACP の実践を促す影響を及ぼす可能性があることが示唆された。

<参考文献>

- ① 国立社会保障・人口問題研究所. 表 3-2 将来の出生, 死亡および自然増加数ならびに率: 2011~60 年. (2016)
- ② Lutzen K, Johansson A, Nordstrom G. Moral sensitivity: Some differences between nurses and physicians. *Nurs Ethics*. 2000;7(6):520-530.

- ③ 中村美知子, 石川操, 西田文子, 伊達久美子, 西田頼子. 臨床看護師の道徳的感性尺度の信頼性・妥当性の検討. *日本赤十字看護学会誌*. 3(1), (2003). pp. 49-58.
- ④ 中井裕子, 宮下光令, 笹原朋代, 小山友里江, 清水陽一, 河正子. Frommelt のターミナルケア態度尺度 日本語版 (FATCOD- B-J) の因子構造と信頼性の検討 - 尺度翻訳から一般病院での看護師調査、短縮版の作成まで-. *がん看護*, 11(6), (2006) . pp. 723-9.
- ⑤ Nakazawa K, Kizawa Y, Maeno T, et al. Palliative care physicians' practices and attitudes regarding advance care planning in palliative care units in japan: A nationwide survey. *Am J Hosp Palliat Care*. 2014;31(7):699-709.

5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計 3 件)

- ① 竹之内 沙弥香. がん患者への意思決定支援の質を高める 診断時から終末期までの「意思決定支援」と「アドバンス・ケア・プランニング」. *看護管理, 査読無*, 25(2), 2015, 125-133.
- ② 竹之内 沙弥香. 「もしも...」のことをあらかじめ話し合おう!-アドバンス・ケア・プランニングの実践 体験が教えてくれたアドバンス・ケア・プランニングの大切さ. *査読無、緩和ケア*, 22(5), 2012, 411-415.
- ③ 竹之内 沙弥香. VII 緩和ケアに関する教育 3. 看護師の緩和ケアに関する教育. *ホスピス・緩和ケア白書 2012*, 2012, 青海社, 東京, 58-61.

[学会発表] (計 7 件)

- ① 竹之内 沙弥香. 「意思決定支援」最期まで自分らしく生ききることを支えるために～看取りを考える～. 第 18 回京都府看護学会. 平成 28 年 1 月 23 日. 京都テ

- ルサホール（京都府、京都市）
- ② 竹之内 沙弥香. 「終末期がん患者の擁護者をエンパワメントする：ELNEC-Japan の取り組みを通して」. シンポジウム 3「“ガンと生きる”をサポート(2)―終末期がん患者のケア―」第 53 回日本癌治療学会学術集会. 平成 27 年 10 月 29 日. 第 2 会場 (国立京都国際会館 1 F アネックスホール 1, 京都府、京都市)
- ③ Takenouchi Sayaka. Defining the Need and Launching Translation: ELNEC-Japan Core, Gero, and Critical Care Curricula. ELNEC Asian Pre Conference. August 18, 2015. Keauhou Ballroom, Sheraton Kona Resort. Hawaii, United States.
- ④ Takenouchi Sayaka. Empowering Nursing Professionals to Provide Quality End-of-Life Care in Japan: the ELNEC Japan Project. Centennial Global Partnership Spring Event. March 18, 2015. Saint Anthony College of Nursing, Illinois, United States.
- ⑤ Takenouchi Sayaka, Nin Kazuko, Hiroko Utsunomiya. Approaching Advance Care Planning: Perceptions and Perceived Challenges by Japanese Nurses. Centennial Global Partnership Spring Event. March 18, 2015. Saint Anthony College of Nursing, Illinois, United States.
- ⑥ Megumi Umeda RN, OCNS, PhD, Sayaka Takenouchi, Keiko Tamura, Masako Kawa, Tomoko Arahata, Miyoko Kuwata, Tomoyo Sasahara, Mikako Takahashi, Naoko Hayashi, Mitsunori Miyashita. The Development of the End of Life Nursing Education Consortium-Japan Core Train-the-Trainer Program in

Japan. The 1st Asian Oncology Nursing Society Conference. November 22, 2013. Bangkok, Thai.

- ⑦ 竹之内 沙弥香. シンポジウム 2 6 「緩和医療の動向と展望 わが国の看護における緩和ケアの普及と教育 ELNEC-J プロジェクトを通して」第 50 回日本癌治療学会学術集会. 平成 24 年 10 月 26 日. パシフィコ横浜 第 11 会場(会議センター 5 階 502) 神奈川県, 横浜市.

[図書] (計 2 件)

- ① Takenouchi, Sayaka, Tamura, Keiko. 77. Palliative Care in Japan. Oxford Textbook of Palliative Nursing, 4th Edition. 2015. In Betty. R. Ferrell, Nessa Coyle & Judith. Paice (Eds.), New York: Oxford University Press. 1131-1135.
- ② 竹之内 沙弥香. 3 看護活動の視点 2 患者の経過段階と看護. In 任和子., 大西弘高. (Ed.), ナーシング・グラフィカ 基礎看護学 5 臨床看護総論. 2014. (1st ed., pp. 109-118). 大阪市: 株式会社メディカ出版.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

竹之内 沙弥香 (TAKENOUCHI, Sayaka)
京都大学大学院・医学研究科・助教
研究者番号：00520016